

小学校の鑑賞教材について*

奥 忍 安田 香**
(音楽教室) (滋賀大学教育学部)

音楽の授業は、学年が進むに従って、児童に好まれなくなると言われている¹⁾。我々も、先の研究において、同様の結果を得た²⁾。しかも、音楽の授業を好まなくなる比率は、歌唱を好まなくなる比率と平行していたのである。一方、鑑賞は、他の分野とは反対に、学年が進むにつれて好む児童が増加していた。鑑賞は、演奏や創作と比べて受動的と考えられがちな要素を持つ音楽活動である³⁾。音楽の授業を嫌がる気持ちが児童を鑑賞へ追いやるのであろうか、それとも、鑑賞が他の分野にない積極的な魅力を持っているのだろうか。本研究は、児童が鑑賞の授業についてどのような気持ちを抱いているか、また、鑑賞教材の持つ問題点は何か、を明らかにしようと試みたものである。

方 法

調査対象 京都市立の市街部小学校4校と、中学2校、人数の内訳は次の通りである。この学年が選ばれたのは、新学年が始まったばかりの時でもあり、昨年度の教材について質問せざるを得なかったからである。更に、京都市立小学校の教師75名。使用教科書：統合版楽しい音楽1～6 音楽教育図書KK

表1. 調査対象，児童の人数内訳

		中1	小6	5	4	3	2	計
I	男	78	73	73	78	70	77	449
	女	82	70	80	76	80	79	467
	計	160	143	153	154	150	156	916
II	男	40	36	28	45	36	37	230
	女	42	34	41	43	40	38	238
	計	82	70	69	88	76	75	468

調査期間 昭和49年6月第1回目のアンケート，9月に更に問題点について第2回のアンケート調査を行った。

* On the Musical Listening Material in Primary School Education.

** Shinobu Oku (Department of Music, Nara University of Education.)

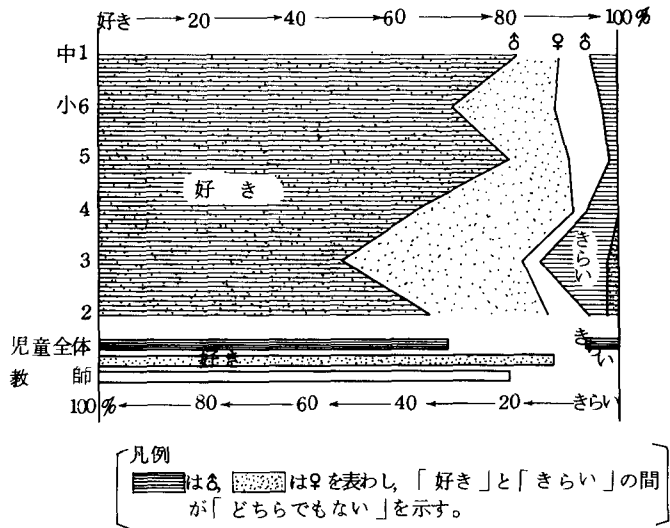
Kyo Yasuda (Department of Music, Shiga University.)

結 果

今回の調査で明らかになったことを以下に示す。

- I 児童の多くは鑑賞（授業に限らない）を好む。ことに4年～中学1年の女子では、嫌いな者は皆無である。3年の男子には嫌いな者、好きでも嫌いでもない者が、6年の男子には好きでも嫌いでもない者が、他学年に比して多い。（図1）

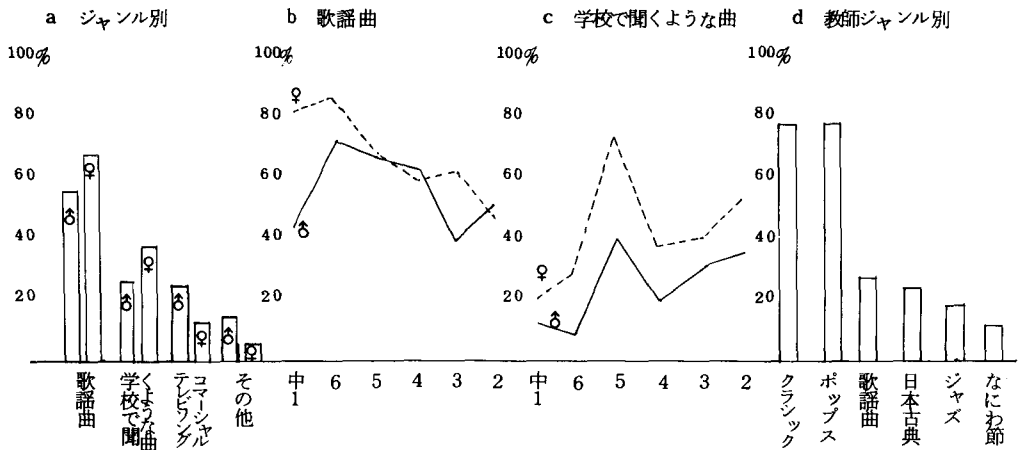
図1. 音楽をきくことは好きですか。



- II 教師も鑑賞を大変好む。（「嫌い」皆無）

- III 児童が最も好んで聞くのは歌謡曲であり、次いで学校できくような曲、コマーシャルソング、テレビソングとなっている。しかし、5年では、学校できくような曲の支持率が極めて高く、うち女子は、歌謡曲を上回る70%という数字を示している。（図2）

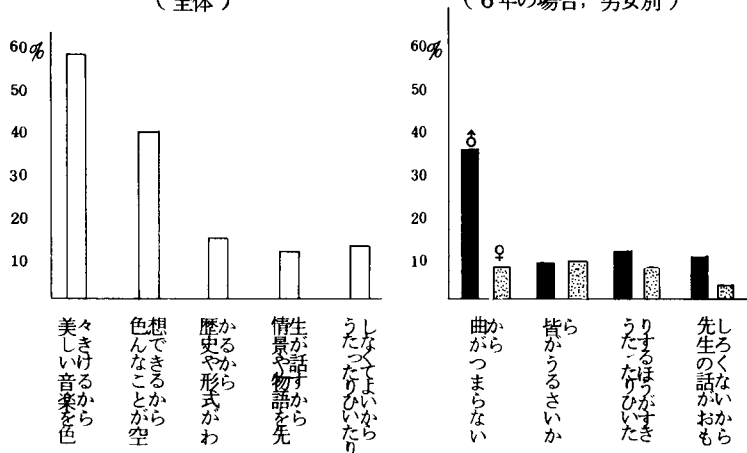
図2. どんな音楽を聞くのが好きですか。



Ⅳ 5年で高い支持率を示す学校できくような曲は、しかし、6年、中学1年で途端に好まれなくなる。これらの学年ではいろんなジャンルの曲をきくようになるが、学校での鑑賞の時間が嫌いな者が、その理由として、「曲がつまらない」を第一に挙げている。彼らの中には、学校できかないようなクラシック音楽を好む者が11%強もいる。

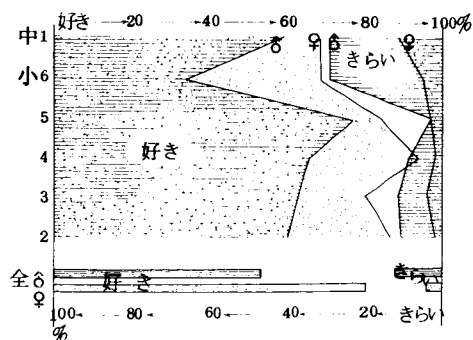
Ⅴ 児童は、学校の音楽の時間での鑑賞を積極的に支持している。全体の70.1%が、学校の音楽の時間で鑑賞は好きと答え、その理由として、「美しい音楽がいろいろときける」「いろんなことが空想できる」をトップに挙げ、「歌ったり弾いたりしなくてよい」という消極的理由を示した者は少ない。また、「歴史や形式がわかる」「情景や物語を先生が話す」を理由に挙げた者も割合少なく、教師が曲について語ることは、授業での鑑賞を好きにならせるのに積極的働きを持っていないことを示している(図3)。教師自身は、楽しくきかせることに最も留意している。(留意点として「児童が楽しく曲をきけるようにする」を挙げた者77.3%、「とにかく静かにきかせる」21.3%「基礎や音楽史について理解を深めさせる」8.0%)

図3. a 鑑賞はなぜ好きですか (全体) b なぜきらいですか (6年の場合、男女別)



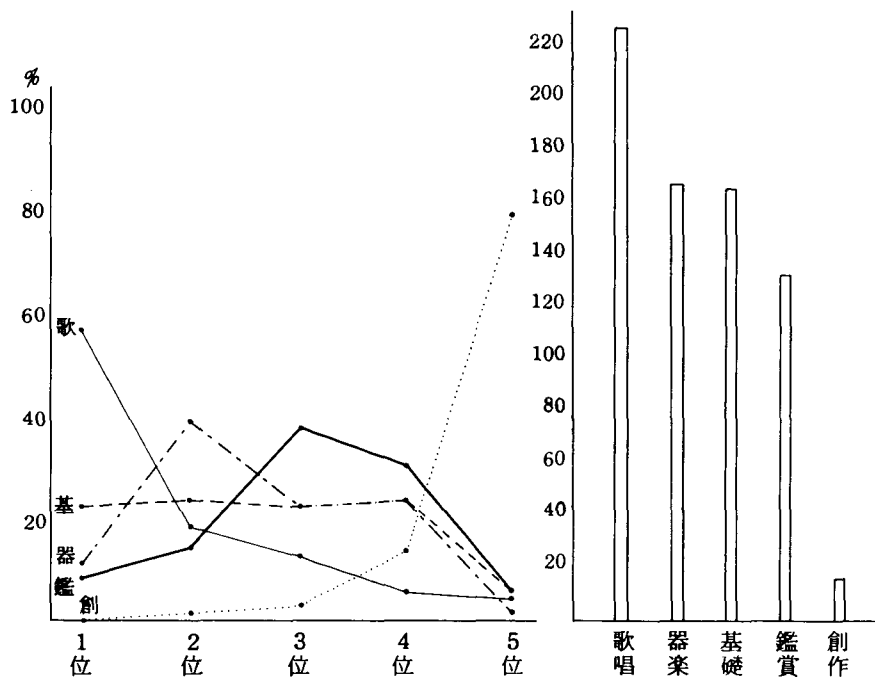
Ⅵ Vで述べた如く、授業での鑑賞は児童全体に積極的に支持されているが、6年、中学1年で支持率が下がる。ことに、6年男子では、半数が「好きでも嫌いでもない」と答えている(図4)。このことは、Ⅳで示したことと関連する。

図4. 学校の音楽の時間で鑑賞は好きですか(図の見方は、図1.に同じ)



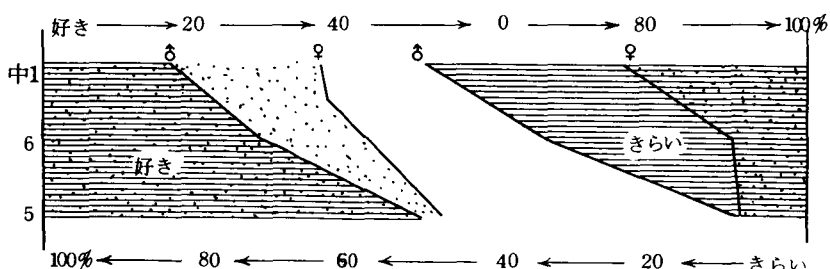
Ⅶ 教師にとって、鑑賞は、音楽の授業の中ではとりわけ指導し易いものでもなく、とりわけ指導しにくいものでもない。(図5のaは順位をつけた教師の%, bは1位を4点, 2位を3点, 3位2点, 4位1点, 5位0点とし, 各分野の得点の計を表わしたものである。) また, 教科書外の教材を用いている教師は8.0%と極めて少なく³⁾, このことから, 鑑賞の時間は余り工夫を凝らされていないことがわかる。

図5. 音楽の授業で指導しやすいものから順に番号を付けて下さい。



Ⅷ 日本音楽は総じて好まれていない。5年以上では, 学年が進むにつれて日本音楽が嫌いになる傾向がみられる。(図6)

図6. 日本音楽は好きですか。(図の見方は図1に同じ)



Ⅸ 児童に好まれる教材は, ほとんどが標題(描写を含む)音楽である(表2)。また総じて, 物語のある曲をききたがっている(図7のa)。しかし, 6年, 中学1年の男子は, 物語と関係ない曲を望む者の方が多い。一般に女子の方が物語のある曲を好む(図7のb)。

- X 教師も絶対音楽よりも 標題音楽を好む傾向にある（絶対音楽の方が好き 8.0%，標題音楽の方が好き 25.3%，どちらも好き 45.3%）。
- XI 舞曲，行進曲を望む者が，それらの教材の数に比例して増減する。即ち，舞曲教材は学年が進むにつれて減り，行進曲教材は 4 年まで増え以降減るが，児童の好みはそのカーブに平行している（図7の c，d）
- XII 曲の一部のみを聞かせる教材は好まれないし（表 2），児童も全体をききたがっている（図7の e）。
- XIII ステレオの改良を望む声とくに男子に強い（図7の f）。
- XIV 5 年生は，あらゆる点で最も積極的である。既に III で述べたことに加えて，鑑賞に対する意見を積極的に示す（図7全体）ことがそれを証明している。

考 察

以上の結果から，我々は，小学校における鑑賞教育は，ことに歌唱教育に比して⁴⁾成功していることを知った。それでもなお，いくつかの問題が残されている。その中で，今回は，授業での鑑賞が 6 年で少しく支持されなくなる傾向にあること，児童の好む教材が標題音楽，実用音楽に偏っていること，日本音楽は総じて好まれないことを取り上げたい。（うち前二者は互いに密接な関連があるので一緒に取り扱う）。

I 標題音楽，実用音楽への偏向，及び 6 年で鑑賞の授業に対して興味が薄れること。

既に述べたように，児童の好む教材は，標題（描写を含む）音楽，実用音楽（実際に舞踏や行進のために書かれたものでなくとも，舞曲，行進曲のスタイルをもつものも，便宜上，これに含む）が多い。しかし，児童は，多種多様な音楽からこれらを選んでいるのではない。実は，小学校の鑑賞教材のほとんどがこうした音楽で占められているのである。中でも，各学年 3 曲づつ指定された共通教材のうち，標題音楽でも実用音楽でもないのは，6 年の「六段」のみである。

全教材のうち，学年を通じて多いのが標題音楽，学年が進むにつれて減っていくのが舞曲，4 年まで増えてゆき，以降減っていくのが行進曲となっており，5, 6 年で減った実用音楽（舞曲，行進曲）の分だけ絶対音楽が入ってくる。標題音楽では描写内容や文学的内容を，実用音楽では踊ったり行進したりしているところを絵で示し（ことに共通教材は 2 ページ抜きのカラーである），児童の興味をひく。また，実用音楽では，その絵でもって同時に曲の形式を示し，身体反応と結びつけつつ，形式を把握させようとする。そして，実用音楽が減る高学年では，低学年で身につけたものを基に，抽象的にも形式を（即ち絶対音楽の形式を）把握できるようにさせるべく意図されている。

全児童の 70% が「学校の音楽の時間で鑑賞は好き」と答えていることは，以上のような選曲と指導法が一応成功していることを示している。そして，実用音楽を望む声が，それらの教材の数に比例して強くなり弱くなりすることに，学校での鑑賞教育の強い影響力を見る。

しかし，ここで，既に述べた 6 年，中学 1 年（特に男子）での授業での鑑賞への興味の薄れについて考えたい。授業での鑑賞が嫌いな場合の理由のうち，この学年では「曲がつまらない」が目立つことを指摘したが，では，彼らが好んできくのはどんな音楽だろうか。

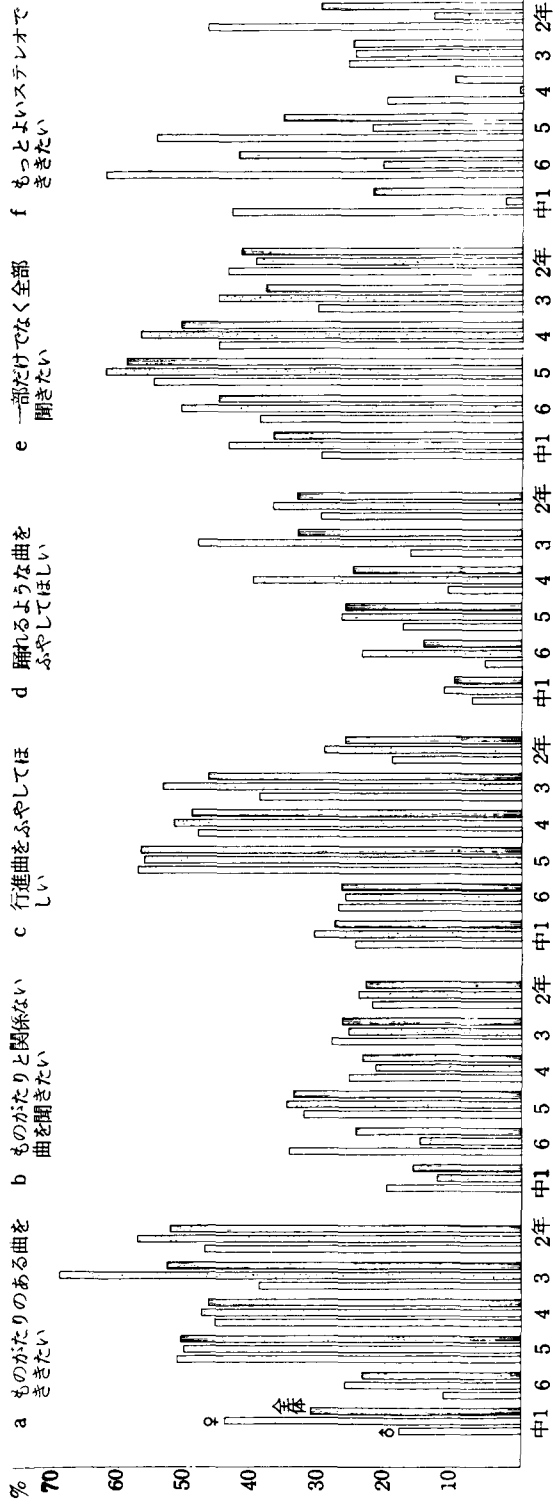
表 2. 好まれる教材と好まれない教材

学 年	曲 名	作曲年代		ジャンル	演奏形態	拍 子				速 度			形 式					旋 法								
		外国	日本	絶対		課題	实用	2	4	3	6	緩	中	急	リト	3部	2部	ソナタ	他	長調	短調	日本				
好 ま れ る 教 材	★ベルギェント 朝 オーゼの死 アニトラの踊り 山の魔王の広間 ドナウ川のさざなみ セレナーデ I II III IV	19c			○	Orch.		○												E						
		18c			○	○	○																			
	5	★くるみわり人形 小さい序曲 行進曲 こんべいとうの踊り トレバック アラビアの踊り 中国の踊り あしぶえの踊り 花のワルツ ★ウィリアムテル序曲 夜あけ あらし 静けさ スイス軍の行進 ★滝城太郎の歌曲 花 箱根の山 荒城の月	19c			○	○	Orch.																		
19c				○	○	Orch.																				
20c				歌		女声合唱 男声合唱 混声合唱																				
4	★スケーターズワルツ ★軍隊行進曲 ★白鳥	19c 19c 19c				○	○	Orch. pf. Vc. pf.													A D G					
3	★メヌエット ★金婚式 ★輕騎兵序曲	19c 20c 19c				○	○	Fl. Hp. Cl. Orch. Orch.													Es A			a		
2	★カッコウ・ワルツ ★トルコ行進曲 ★ユーモレスク さくらさくら変奏曲	20c 19c 19c				○	○	Orch. pf. Vn. pf. 琴													C B G			平		
1	★おもちゃの兵隊 ドレミのうた	20c 20c				○	○	Orch. 女声児童合唱													C C					
好 ま れ な い 教 材	6	★六段 フーガ		江戸		○	○	琴 Org.																	平	
	5	ロンド 交響曲「時計」 剣の舞	18c 18c 20c				○	○	Fl. Orch. Orch.																	g h G
	4	アンビルコーラス フィランドール 教えうた変奏曲 わらべうた	19c 19c			○	○	混声, Orch. Orch. 琴 合唱														G D			d 平 陽 陰	
	3	わらべうた				○	○	歌																		陽
	2	つむぎうた 二人でおどりましょう	○ 19c				○	○	混声児童 Orch.																	F F
	1	★森のかじや 大男の行進 くつがなる変奏曲	19c 18c 20c				○	○	Orch. Plus Fl. pf.																	G F D

★は共通教材を示す

教科書の取り扱い, その他
カラー・グラビア見開き
第Ⅱ楽章の歌唱教材
カラー・グラビア見開き
白黒4コマ情景画入り
カットに作曲者の肖像
2色オフセット見開き 〃 〃
組曲「アルの女」より。カラー・グラビア見開き カラー・グラビア見開き 〃
カラー・グラビア見開き 〃 〃
歌唱教材と対, カラーカット付き
カラー・グラビア見開き カラーカット付き
楽譜一部挿載 カットにオルガンの写真
組曲の一部, カットに作曲家の肖像 第二章のみ, カットに作曲家の肖像 強烈なリズムと土俗的旋律, カットに剣の舞の写真
オペラの一部, カットにオペラのステージ写真 オペラの一部, 歌唱教材と対 カットに琴演奏写真 カット付き
カット付き
カット付き オペラの一部, カット付き
カラー・グラビア見開き カット付き カットにFl演奏写真

図7. レコード鑑賞について希望すること(○)をつけて下さい。



歌謡曲はどの学年も好むところであったが、6年、中学1年の女子では圧倒的、6年男子でも5年以下より多い支持を集めている。中学1年男子では少し落ちる。そして、5年以下では見られなかった、或はあってもほんの僅かであったジャンルとして、クラシック、ポピュラー、映画音楽、ロック、ジャズ、フォークが出てくる。(以上は「その他」の欄に児童自身が記したものである。「学校で聞くような曲」という項があるにも拘らず、取り立てて「クラシック」とか「室内楽」とか「交響曲」とか記しているのである。)

「レコード鑑賞について希望するところに○をつけて下さい」に対する、5年と対照的な消極的反応(図7)を、以上のことを考え合わせると、「学校で教材を、家で好きな曲を」というパターンが6年でできると考えられる。(先の研究で、歌唱についてはこのパターンが2年ででき上がってしまうことがわかった¹⁾。鑑賞における児童と教材との離反は、歌唱の場合におけるほど深刻ではない。

ところで、「学校の音楽の時間での鑑賞は好きですか」に対し、「どちらでもない」と答える者が半数を占める6年の男子(図4)が、他の学年よりも強く望んでいることが二つある。一つは、「物語と関係ない曲をききたい」であり、今一つは「もっとよいステレオでききたい」である(図7)。そして、6年の男子には、「どんな音楽をきくのが好きですか」に対して「クラシック」を記した者が、他学年よりも多い。絶対音楽をよい音でききたいと願っている者が相当数いるのである。これに対し、女子では「物語のある曲をききたい」者が多い。男子の望みは、現行の教材ではほとんど満たされる余地はないし、女子の望みは満たされている筈なのに、なおかつ、「曲がつまらない」から学校での鑑賞は「きらい」「どちらでもない」という者が、下級生より増えている。実は、この二つの問題は表裏一体なのである。

例えば、真篠将編著「音楽の鑑賞指導」⁶⁾、花井清・渡辺学著「音楽科現場の指導技術」⁷⁾、新音楽研究会編「統合版楽しい音楽」指導書(本研究使用教科書の教師用指導書)⁸⁾等を見ても、指導法に絶対音楽の、標題音楽の、実用音楽のパターンがあり、逆にこのパターンが曲を選ばせている。絶対音楽は、教えることを理解するのに相当の理解力を必要とするから、小学生には、いわんや低学年には不向きである、とされたり、形式を詳しく教えるためには、長い曲はその一部に限らざるを得ないとされたり、標題音楽は、何よりも、話の筋や描かれているものが第一であるから、それが子供向きであるものを選んだりしているように思う。児童は、6年ぐらいになると、このパターン化した指導法、選曲に飽き足りなくなり、男子の一部は、音楽を理屈や話ぬきでききたいと願い、女子の大多数と男子の一部は、同じ「お話」なら標題音楽の物語よりも、もっと身近で興味深い歌詞を持つ歌謡曲⁵⁾の方が面白いということになってくる。

先に挙げたどの著書も、「児童の心身の発達段階に即した、音楽性の成長に適切な選曲と指導」をうたっているが、「こういう音楽はこうした教え方」といったパターンに囚われることによって却って児童の発達段階に即することが出来なくなっているし、そこに、学校での鑑賞を高学年児童から遠ざけている原因があると考えられる。絶対音楽、標題音楽といった枠に縛られない音楽の与え方もあってよいのではないだろうか。

Ⅱ 西洋音楽への偏向、及び日本音楽に対して興味が薄れること。

「日本音楽は好きですか」という問は5年以上のみを対象とした。なぜなら「日本音楽」というジャンルが他のジャンルから概念として区別できるのは5年以上と考えたからである。図6はその結果を表わしたものであるが、次のように考えることができる。

★図4と比較して、好きと答えた者が少なく、きらいと答えたものが多い。

★前項Ⅷで述べたように、学年が進むに従ってきらいと答える者が増加する。

★他の項目にも共通することであるが、男女差が見られ、好きと答える者は女子が男子より多く、きらいと答えた中1の男子は50%にもぼっている。

★表2に見られるように、各学年の教材に現れる日本音楽の中では滝廉太郎と「さくらさくら」変奏曲は好まれているが、他の曲は好まれていない。これら2曲を他の曲より好む者が多いのは曲そのものの性格にあると云うより、これらの曲が歌唱教材と一対になっている、という教科書の取り上げ方が原因しているのではないだろうか。ではなぜ児童は日本音楽を好まないのか。次の3つの観点から考察しよう。

a. 教師の側の問題 日本音楽を好きな教師が少ないこと(図2のd)。

b. 児童の側の問題 接触頻度が極めて少ないこと。

c. 音楽の側の問題 形式。他の外国教材との関連。選択された曲が適当かどうか。与え方。

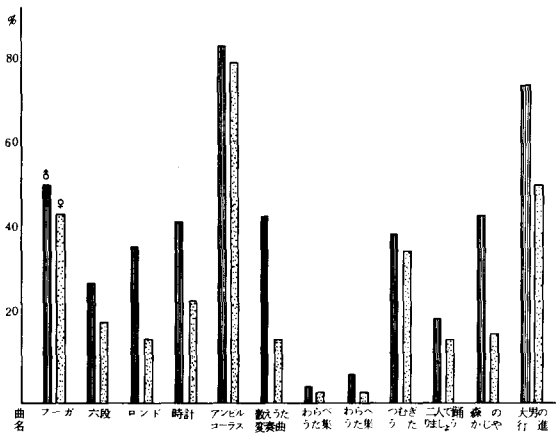
aについて……音楽の授業の持つ芸術的な面を考えると、教師がその教材について抱えている思考が授業に多大な影響を与えらると思われる。我々の先の研究においても²⁾、教師の好まない教材は、児童も好まない、という傾向が見られた。この意味において、日本古典を好む教師が17.3%しかないことは問題である。

bについて……日本音楽が学校教育の場で積極的にとり入れられるようになってから既に10年経過した。調査対象の児童は其中で育ってきた年代である。にもかかわらず彼らも又吉川英史氏の「日本音楽を特殊な音楽だと思いつぎてきたことからの悪巡環」の上に居るのだろうか⁹⁾。彼らの聞き方は日本音楽だから嫌い、という概念的な聞き方ではない。児童は琴の音やわらべうたを、陰気臭い、古臭いと感じ、わけがわからないと戸惑い、たいくつしてしまうのである。日本音楽は、機能和声や調性で支えられた西洋音楽とは全く別の体系の音楽である。彼らが日本音楽を好きになるためには、この音言語を理解できねばならず、そのために最も重要なことは数多く接触することであろう。果して彼らは多く触れているのだろうか。

教材全体を眺めると、鑑賞教材では4年2曲、他学年は1曲ずつである。器楽教材には外国曲か、機能和声にのっとった新曲のみ、歌唱教材においてさえわらべうたや古謡は極めて少ない。学校で接すること少なく、家庭でも接することの殆んどない日本音楽である。(中沢儀男は京都市内の家庭において、伝統楽器が既に生活から離れ、特殊な限られた人たちだけのものになっていると指摘している¹⁰⁾。

cについて……日本音楽とは云え教材に現れるのは、わらべうたと箏曲が主である。わらべうたが現在でもこどもの遊びの中に深く入りこんでいることは小泉文夫の研究¹¹⁾によって指摘されているのであるが、教材で用いられているものは果して児童が親近感を持つものであろうか。児童に支持されなかった曲には、例えばアンビルコーラスのように印象が薄く忘れられてしまった曲もあ

るのだが、わらべうたの場合は曲は一応児童に定着しているようである（図8）。しかし児童は
 図8. 好まれない曲について、忘れたと答えた児童



教材のわらべうたを実際にうたい、遊んでいるのだろうか。教材には様々に芸術的な工夫が凝らされている。「清水の観音様」はカノン風に、「ひとめふため」はオスティナートを、「守さ子守さ」はリート風に、「ねんねころいち」は平行和声を等々。即ちこれらはこどもたちの遊ぶわらべうたではなく、わらべうたを基にして創作された芸術作品なのである。「こどものうただから」という理由で教材にとり入れるなら、導入の方法と、編曲の方法に問題がありはしないだろうか。

わらべうた以外の教材はすべて箏曲である。歌唱教材と対になっていない4年の「数えうた変奏曲」と6年の「六段」は支持率が低い。「さくらさくら変奏曲」は上位にグルーピングされるものの、嫌いと答えた者が男子で38.6%もいる。これら3曲に共通する要素は、一種の変奏曲形式であること、様式的に古いこと、陰旋法であること、tempoの緩いことが挙げられる。一般に児童の好む曲は複合3部、ソナタ形式、リート形式のものが多く、変奏曲形式、フーガ、あるいはオペラ等からとり出された構築性の薄いものは好まれていない。日本音楽のこのような結果には、児童の形式感が影響している可能性も考えられる。様式については、「六段」、「さくら」は江戸時代、「かぞえうた」は宮城道雄の作品であるが、京都地方の古いわらべうたをテーマにしており、そのテーマの上に箏の様々な技法を盛り込んだ曲で、様式上現代的な内容を持っているとは言い難い。西洋音楽でもバロックは余り支持されていないのだから、児童はそれらの音楽を覆っている遠く隔絶した時代の匂いに違和感を抱いているのであろう。きらいな理由の第一に「ふるくさい、陰気くさい」が挙げられているのである。

以上、日本音楽について考察を進めてきた。各学年鑑賞曲が一曲、多くて二曲という現状を省みると、作品の選択、その与え方等に様々な研究が必要であると云えよう。

要 約

本研究は小学校の鑑賞教材について児童と教師を対象にアンケート調査を行い、その結果を基に、

教材の持つ問題点を明らかにしようとしたものである。主な結果は次の通りである。

1. 歌唱教材に比して児童の支持を多く得ている鑑賞教材の中で、絶対音楽教材と日本音楽教材は概して好まれない。
2. 教材の中で絶対音楽の占める割合は極めて低く、特に低学年では選曲が標題音楽、実用音楽に偏っている。このことが、高学年児童にとって学校での鑑賞が少しまらなくなることに密接な関連がある。
3. 日本音楽についても教材の中で占める割合は極めて低い。しかもわらべうたと箏曲に限られている。それらの曲のイメージは多くの児童に定着しているものの、拒否反応の傾向が強い。この点が西洋の人気を博さない曲との相違点である。歌唱教材と関連する教材は好む児童が多いことから他分野の教材をも含めて接触頻度が少ないことに最大の問題が存する。

注

1. NHK教育テレビ 1974. 2. 10 「音楽の学習」もこの点を問題としたものであった。
2. 奥, 安田, 1974. 小学校の歌唱教材について, 音楽教育学 vol. 4
3. 同上の研究によれば, 歌唱においては44%の教師が副教材を用いている。
4. 同上の研究によれば, 大多数の児童は, 歌うことは好きなのに, 教材の歌は好まなかった。
5. 同上の研究によれば, 児童に好まれる歌謡曲の歌詞は, 淡い恋を憧れる気持をうたうものが多かった。
6. 真篠将他 1972. 音楽の鑑賞指導, 明治図書
7. 花井清・渡辺学, 東京教育大学附属小学校初等教育研究会編, 1972. 音楽科現場の指導技術 東洋館出版社
8. 新音楽研究会 1971. 統合版楽しい音楽・教師用指導書全6冊, 音楽教育図書
9. 吉川英史 1959. 邦学鑑賞入門, 創元社 p 23
10. 中沢儀男 1969. 現代の子と伝統音楽, 音楽教育研究 № 40.
11. 小泉文夫他 1969. わらべうたの研究, わらべうたの研究刊行会

